

いばごてんいせき ちょうせんじんかいどう 伊庭御殿遺跡と朝鮮人街道

所在地：東近江市能登川町

遺跡の概要

伊庭御殿遺跡は、江戸時代初期に徳川将軍が上洛する時に利用する休憩所としてつくられた施設です。現在の東近江市能登川町に所在し、地元ではその場所を「御殿地」と呼んでいます。

代々徳川家の大工頭をつとめていた中井家には、「江州伊庭御殿御茶屋御指図」という、伊庭御殿の指図（設計図）が現在も残っており、指図によると、「御殿」「御湯殿」「御料理間」「石垣池」などがあったとされています。

伊庭御殿遺跡は、現在は能登川町所在の愛宕神社の御旅所として、また地域のレクリエーション広場として利用されています。伊庭御殿の建物跡の敷地を囲むように周辺には高さ約1m、長さ約50mにわたって石垣が残っています。

なお、同じような宿泊施設休憩施設として、柏原御殿（米原市）、永原御殿（野洲市）、水口城（甲賀市）があります。



今までの発掘調査から・・・

伊庭御殿遺跡は、過去に2度の発掘調査（昭和61年、平成9年）が実施されました。昭和61年の調査は学術調査によるもので、地表面から約20cm下のところから、建物の一部と考えられる石列や建物の礎石の下に用いたと考えられる根石らしき遺構、また井戸跡などが検出されました。

これらの遺構は、指図に示されている建物の方向や井戸跡とほぼ合致することがわかりました。



（調査地全景 昭和61年）



（調査作業風景 昭和61年）



石列跡

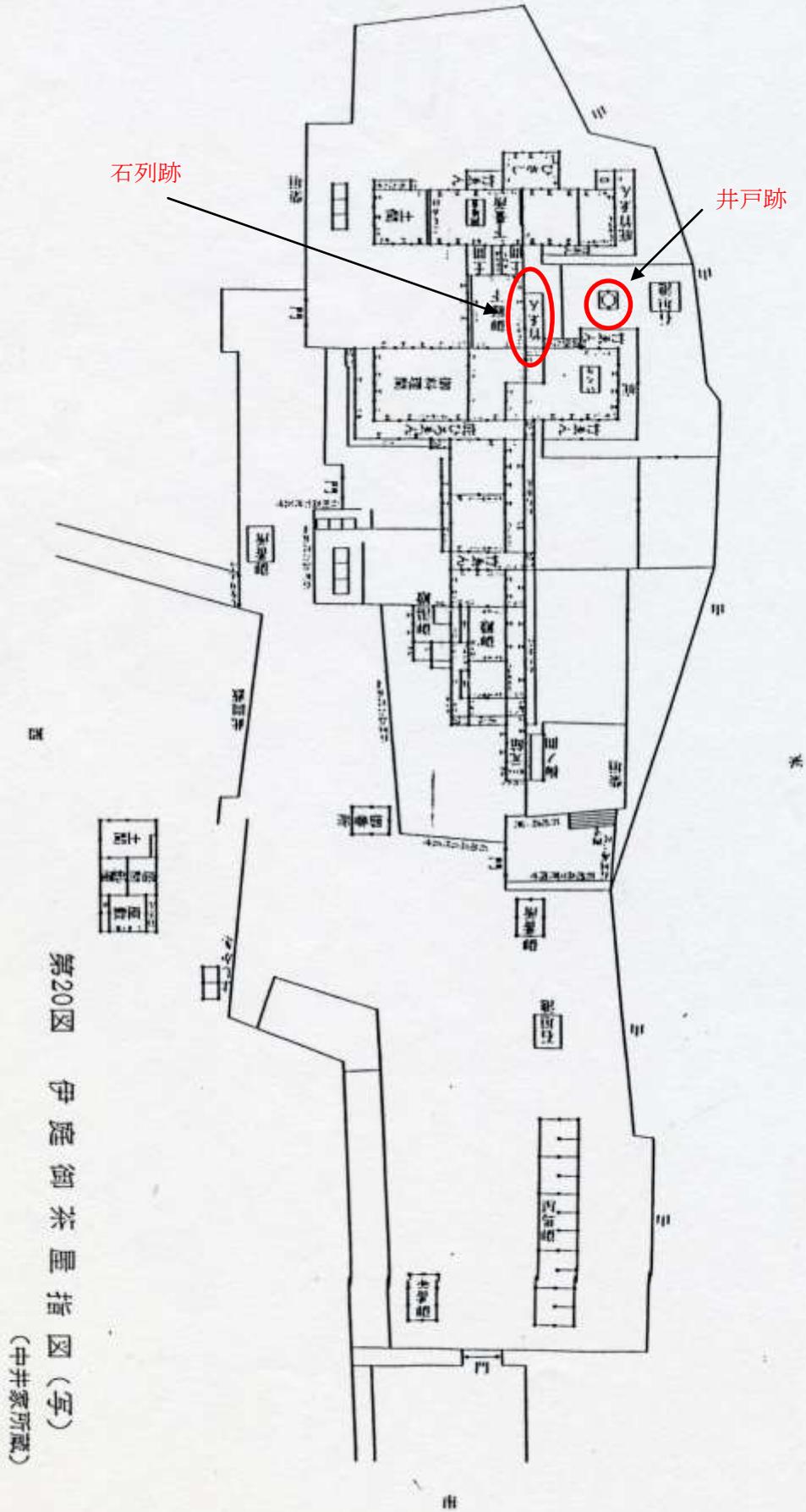


井戸跡（上）と人為的に埋められた井戸の堆積状況（左）

伊庭御殿の存続期間

伊庭御殿の存続期間ですが、現存する中井家の指図及び古文書には、寛永十一年（1634）の記載があり、この時期に建設されたと考えられます。廃止の時期については、滋賀県で同様の施設である永原御殿（野洲市）は貞享二年（1685）に廃止されている記録があり、伊庭御殿についても同様の時期に廃止されたと考えられます。

水口城や永原御殿は方形区画であったことと比較して、伊庭御殿は周囲の地形に合わせて建物配置がなされていたと考えられます。伊庭御殿存続当時は琵琶湖に通じる内湖が近くに存在し、織山も含めて風光明媚な場所にあったと言えるでしょう。



「伊庭御殿遺跡」『能登川町埋蔵文化財調査報告書』より転載

昭和 61 年の発掘調査では、少量の遺物が見つかりました。しかしながら、伊庭御殿が存在していた時期の遺物については、ほんの僅かしか見つかりませんでした。

この現象は、伊庭御殿が機能していたころの生活面が現在の地表面から約 20 cm の深さと非常に浅かったことが考えられます。また、伊庭御殿の存続期間が短期間であったこともその一因でしょう。



こぎくもんかわら
小菊紋瓦

直径約 9 cm で 10 枚の花弁をもっています。建物の棟むねに使用された加飾の瓦と考えられます。



そめつけかめ
染付瓶

高さは 12 cm を測り、伊万里いまりやき焼と考えられます。表面にはタコの吸盤からくさのような模様（たこ唐草文）が描かれています。



こうろ
香炉

口径約 11 cm、器の高さは 5.5 cm を測ります。瀬戸せと美濃みのけい系の焼物で、伊庭御殿の存続時期のものである可能性があります。

その他には、屋根の軒先に飾られた軒平瓦のきひらがわらや丸瓦まるがわら、手捏ねの土師器てづく はじきの皿などが出土しています。なお、平成 9 年の発掘調査では、小菊紋瓦 1 点が見つかっています。

小堀遠州

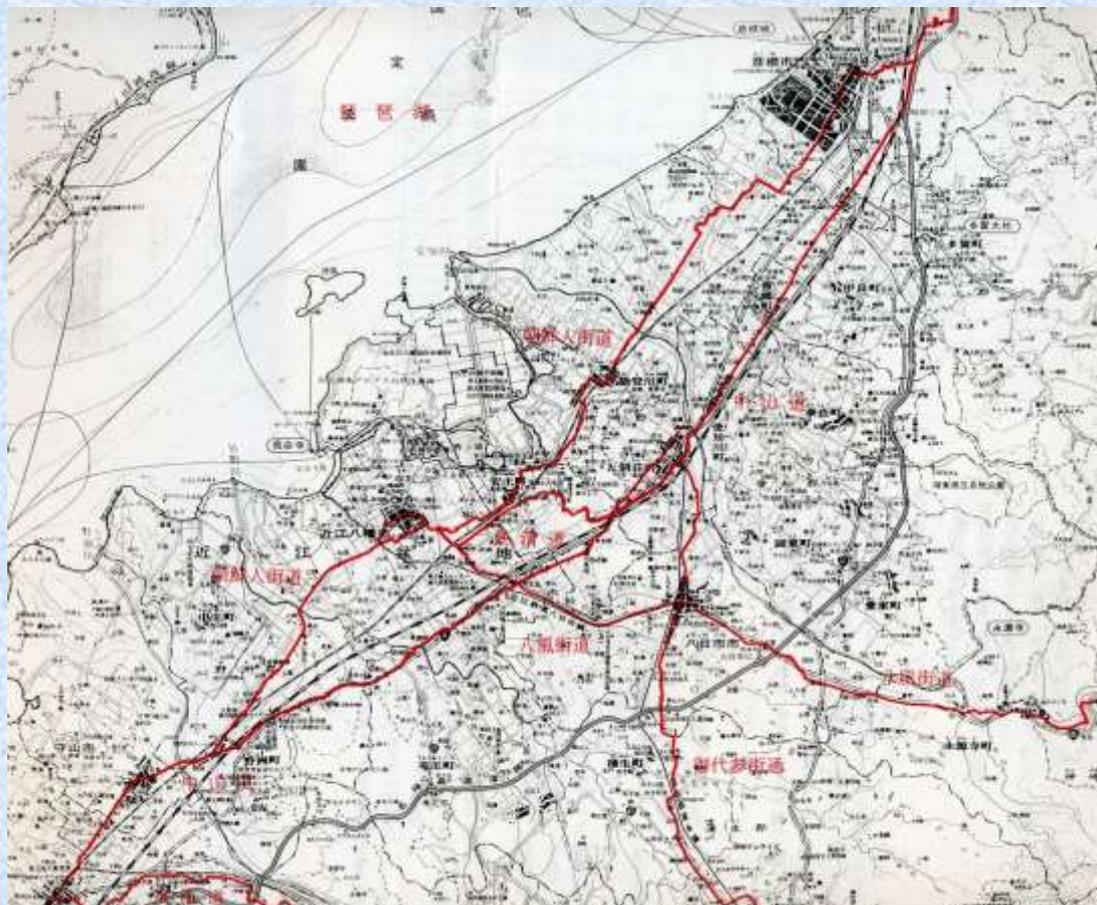
伊庭御殿の工事の責任者は、作事奉行「小堀遠州」という人物です。小堀遠州は、現在の長
濱市出身の人物で、小堀遠州が設計した二条城にじょうじょうに 二の丸御殿まるごてんや大徳寺塔頭だいとくじだつちゅうりゅうこういんみつあん 菴光院密庵なんぜんしほうじょうていえんはとも
に国宝に指定されていて、二条城二の丸庭園は特別名勝、南禅寺方丈庭園は名勝となっていま
す。他にも小堀遠州が手掛けた建造物や庭園は、重要文化財や名勝としてその価値が評価されて
います。

小堀遠州は、建築や庭園のほか、茶道などにも才能を発揮し、その業績は江戸時代初期の文化
史を語る上で欠かすことのできない人物です。

朝鮮人街道とは・・・

朝鮮通信使とは、江戸時代に江戸幕府徳川家康とくがわいえやすと朝鮮国李王家ちょうせんこくりおうけとの間に結ばれた「信を
通ずる」ことを目的とした使節しせつのことです。

その朝鮮通信使が通った経路を「朝鮮人街道」と呼びます。特に近江では、旧中山道の行畑
(野洲市)と旧中山道の鳥居本(彦根市)までのおよそ41kmを指します。この道は、以前か
ら存在する街道で、中山道より下を通ることから「下街道」、琵琶湖岸近くを通ることから「浜
街道」、また徳川家康が上洛の時に通行した理由から「上洛道」などと呼ばれていたようです。



中近世古道調査報告書1『朝鮮人街道』より転載

東近江市では、唯一能登川地区を通過します。ここでは、近江八幡市安土町から彦根市までの行程を説明します。

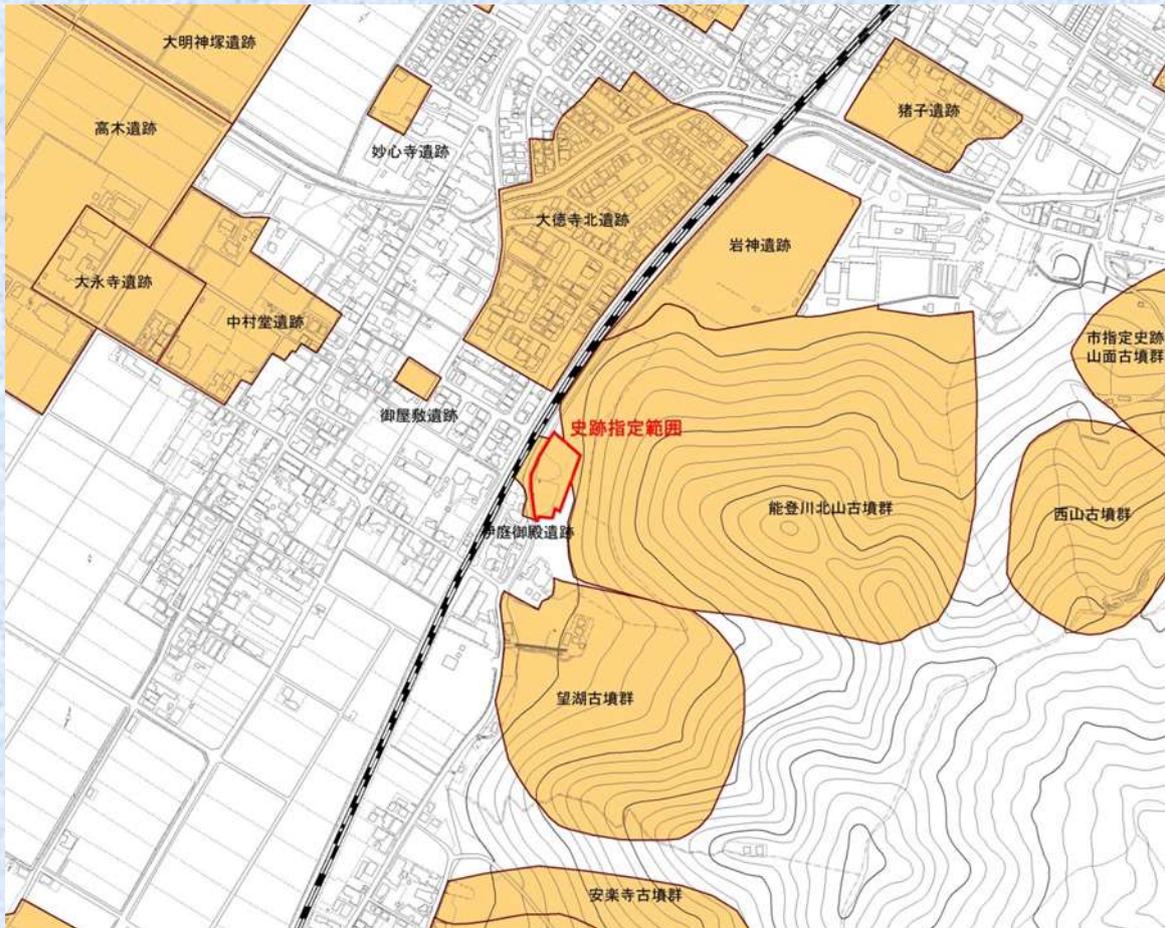
近江八幡市と東近江市の市境「北腰越」^{きたこしこえ}越え、右側の道を進み、南須田町、北須田町を通過し（写真1）、^{きぬがささんろく}織山麓に沿って進みます。右側に^{さんぼうさんじんじゃ}織峰三神社や^{ぼうこじんじゃ}望湖神社（写真2）を見ながら直進し、伊庭御殿の手前で直角に曲がりJRの踏切を渡ります。

県道2号線（大津能登川長浜線）を横断し、最初の交差点を右折し、能登川町内の道路を直進します（写真3）。今度は、県道2号線と合流し、林交差点で右折します（写真4）。

林交差点を右折後、JRの林踏切を越え、右側に流れる川に沿って少し進みます。次の交差点で左折し、次の交差点で右折します。また、すぐの交差点を左折して、この先は直進します（写真5）。JRの垣見踏切を渡り、再び県道2号線と合流（写真6）して愛知川を越え、彦根市に入ります。ほぼこの行程が能登川地区における朝鮮人街道の道のりです。



遺跡位置図



所在地 : 東近江市能登川町
アクセス: JR琵琶湖線能登川駅下車 徒歩 15 分
名神高速道路八日市 I.C より車で 30 分

関係する報告書

- ・「伊庭御殿遺跡」『能登川町埋蔵文化財調査報告書』第7集
能登川町教育委員会 昭和62年
- ・「伊庭御殿遺跡（2次）」『能登川町埋蔵文化財調査報告書』第42集
能登川町教育委員会 平成9年
- ・「朝鮮人街道」『中近世古道調査報告書1』滋賀県教育委員会 平成6年



東近江市の遺跡シリーズ18 「伊庭御殿遺跡と朝鮮人街道」

編集・発行 : 東近江市教育委員会 埋蔵文化財センター

〒521-1225 滋賀県東近江市山路町 2225

TEL:0748-42-5011 IP:050-5801-5011 FAX:0748-42-5816

[平成29年3月発行]

このパンフレットは特色ある埋蔵文化財活用事業の補助金)を得て作成しました。